

「教育臨床総合研究20 2021研究」

令和2年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on the “Basic Experience Area” in 2020

橋 津 健 一*

Kenichi HASHIZU

山 根 貴 史*

Takafumi YAMANE

長 岡 美 沙*

Misa NAGAOKA

田 中 英 也*

Hideya TANAKA

山 中 慎 嗣*

Shinji YAMANAKA

川 路 澄 人**

Sumito KAWAJI

要 旨

令和2年度の基礎体験活動は新型コロナウイルス感染拡大により、例年とは大きく異なることとなった。前期は学外での体験活動中止、後期においても宿泊を伴う体験活動の中止という制約がある中、新型コロナウイルス感染防止対策の指導（資料1参照）を十分に行いながら、事業所との協力のもと基礎体験活動を再開した。また教育支援センターにおいてもセンター演習を企画運営し、学生に多様な活動を保証してきた。

〔キーワード〕 基礎体験活動 コロナ対応 教職離れ対策 教育支援センター

I はじめに

「1000時間体験学修」は、1000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、「基礎体験」「学校教育体験」の2つの領域で構成される。「1000時間体験学修」の内訳は、「基礎体験領域」の「必修」が100時間、「選択必修」が540時間、「学校教育体験領域」が360時間となっている。

令和2年度の基礎体験活動は、令和2年2月頃から拡大した新型コロナウイルスの感染により、教育学部のカリキュラムの中で最も影響を受けたものの一つと言える。対人経験の中から教師に必要な能力を高める本活動にとって、対人関係において感染する可能性の高い新型コロナウイルスとの相性は最悪とあって良いであろう。全学の新型コロナ感染症対策本部の会議を経て、学部長を長とする学部コロナ対策会議の決定をもとに全ての講義、体験活動（教育実習を含む）の運営を進めるため、そこでの決定方針に従って基礎体験活動を実施せざるを得ない状況にあった。そのため令和2年度の基礎体験活動は以下の年表に表すように紆余曲折を経ながら1年を過ごすこととなった。今年度の本論文においてこの1年間の記録を残すとともに、今後の基礎体験活動の可能性について検討する。

*島根大学教育学部附属教育支援センター

**島根大学教育学部小学校教育専攻（附属教育支援センター長）

表1 令和2年度の教育支援センターの活動

月日	教育支援センターの活動と新型コロナウイルス感染拡大への対応	関連項目
R2. 2下旬	全国的な新型コロナウイルス感染拡大により、島根大学の学位授与式などほとんどの行事が中止 令和2年度前期の講義がオンライン授業で行われることに決定併せて教育学部の1000時間体験学修も学外での活動を中止と決定	
3/上旬	令和2年度前期の基礎体験活動について協議	
3/26	令和2年度第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会の中止について通知	3
4/17	令和2年度1000時間体験学修「基礎体験活動」の実施に係る新型コロナウイルス感染症予防への対応について通知	3
4/ 18,19	宿泊を伴う入門期セミナー（サン・レイク）の中止	II-1-(5)
4/22	基礎体験合同説明会・第1回基礎体験活動連絡会議の中止	3
4/23	令和2年度1000時間体験学修「基礎体験活動」（前期）の中止について通知	3
6/1	センター演習（だんだん塾特別講義のオンライン視聴、指導案作成）を卒業年次生に開設	II-1-(2)
6/17	地域理解セミナーの中止	II-1-(4)
6/19	令和2年度「スクール・インターンシップ」の中止と基礎体験活動への振替について通知	3
7/8	入門期セミナー2020の開催（宿泊なし2日間で学内にて分散開催）	II-1-(5)
7/10	令和2年度1000時間体験学修「基礎体験活動」の実施（再開）と新型コロナウイルス感染症予防への対応について通知	3
8/24	基礎体験活動（宿泊を伴うものを除く）の再開	II-1-(1) (3)
9/ 25~29	発展期セミナー（4年）、スタートアップセミナー（1年）、充実期セミナー（2年）の中止	II-1-(4)
10/1	後期からセンター演習に「教育現場経験者の先生と語り合おう」を加え、全学部生に開設	II-1-(2)
11/27	応用期セミナー（3年生）の実施	II-1-(7)
12/9	スタートアップセミナー（1年生）の実施	II-1-(8)
12/11	松江市校長会からの依頼により松江市内での小学校学習支援活動を開始	II-1-(6)
12/中旬	令和3年度の基礎体験セミナー等の対応について協議	II-1-(4)
R3. 2~	令和3年度の入門期セミナー（宿泊なし 学内で実施）の企画立案を開始	III-1-(1)
R3. 2/10	第2回基礎体験活動連絡会議及び令和3年度基礎体験合同説明会・第1回基礎体験活動連絡会議の中止について通知	3

Ⅱ 令和2年度の取り組み

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動の参加実績（専攻別体験等を除く）

平成16年度改組により基礎体験活動を卒業要件とするようになって以降の参加実績は、延べ人数2,300名前後で推移していたが、近年は2,000名を割り込むようになった【表2】。これは、3年前より入学者数が2割程度減少（募集定員170名→130名）したことが大きな原因であると考えられる。一方で、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響（8月24日から基礎体験活動開始、各種活動の中止・中断等）により活動募集が160件と過去最も低かったにも関わらず、学生参加延べ名数が1,554名になった点は、大きな成果と言えるだろう。これはコロナ対策として開設した「センター演習（大学主催の活動）」や「学生の教職離れ」対策として取り組んだ「学校現場における活動」への参加者数が増えたことが大きく影響していると考えられる。

表2 基礎体験活動への参加実績

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
受入団体数（団体）	226	266	295	277	266	244	206	181	184	183	192	188	93
募集活動数（件）	451	475	504	511	508	496	443	392	391	387	379	358	160
学生参加活動数（件）	338	340	375	400	348	370	253	323	337	327	319	303	147
参加学生延べ数（名）	1,898	1,953	2,397	2,478	2,292	2,469	2,396	2,223	2,305	1,818	1,913	1,985	1,554

昨年度と今年度の体験活動の参加種別を割合で示す【図1-1・1-2】と、昨年度は青少年教育施設を中心とする社会教育施設での活動への参加が多い。続いて各種団体における活動、行政連携における活動が占めている。これらの活動は、土・日曜日もしくは夕方などの放課後に行われる活動が多く、バス等での輸送手段が準備されたり、宿泊を伴い大人数で募集されたりする活動は、学生にとって参加しやすく、経験・時間数も多く積めるため参加者は多くなる現状があった。

しかしながら、今年度はコロナの状況があり、バスでの大人数の輸送が制限されたり、宿泊を伴う活動については中止となったため、社会教育施設での活動は減少せざるをえなかった。逆に割合が増加したものは学校現場における活動と大学主催の活動である。学校現場における活動については具体的には松江市小学校長会と連携した小学校での学習支援活動（(6)参照）や鳥取県西部の小・中学校での学習支援活動が主として挙げられる。これは、本学部の喫緊の課題

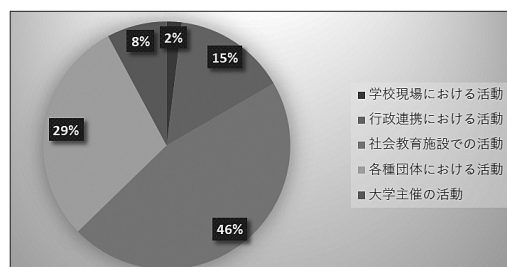


図1-1 基礎体験活動の参加種別（令和元年度）

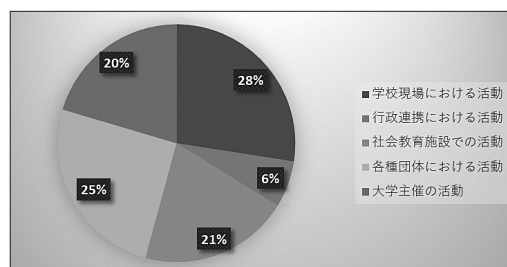


図1-2 基礎体験活動の参加種別（令和2年度）

である「学生の教職離れ」を解消する取り組みの一つとして各団体関係者と連携して進めた結果と考える。また、大学主催の活動としては前述したセンター演習が大きく関係している。参加種別学生数（累計）の割合【図1-3】から見ると、大学主催の活動が半数を上回る結果となっており、コロナ対策で企画したセンター演習を学生が頻繁に活用してくれたことがうかがえる。センター演習の内容については次項(2)で詳述する。

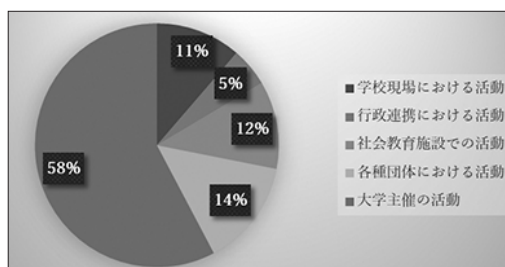


図1-3 基礎体験活動の参加種別学生数 (令和2年度)

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大で基礎体験活動を運営・実施することに苦しんだが、以前からの課題（同じ種類もしくは同じ事業主での活動のみに偏って参加している学生が多数いること）であった活動のバランス化が図れたことも成果と言えるだろう。今後も新型コロナウイルス対策をより適切に講じながら、学校現場や教育行政との連携を強めてより具体的に学生の教師力と教職志向性を高めていきたい。

(2) コロナ禍におけるセンター演習

令和2年2月頃から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、基礎体験活動が中止となったことで活動ができず経験・時間数が積み上げられない学生を救済するため、6月から学内もしくはオンラインで参加可能な内容で構成された以下の3つのセンター演習を開設した（資料2～8参照）。

① だんだん塾特別講義動画視聴

これまでのだんだん塾講演会を収めた動画（YouTube）を視聴しレポートを作成する。

② 指導案づくり

「学級活動」「総合的な学習の時間」「生活科」「特別な教科 道徳」から選び指導案を作成する。

③ 教育現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」

45分間程度、学校現場経験者と語り合うことで、学校現場で求められている力や教職の魅力、学校現場の課題、学級経営のノウハウ、生徒指導、保護者対応等について学ぶ。終了後、レポートを作成し、提出する。

開設当初は卒業の見通しが持てるよう卒業年次生のみ対象に①、②を開設した。しかし、8月23日まで学外で行う基礎体験活動を中止としたことや再開した基礎体験活動の申請件数が例年と比較して少なかったこと、宿泊を伴う活動を中止としたことに鑑み、後期から本演習内容に「③教育現場経験者の先生と語り合おう」を加えて全学年対象に開設した。それに伴い、①も全学年対象としたが、②は指導案作成の意義を理解している3年（教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ経験後）から参加可能とした。各演習の参加学生延べ数は以下のとおりである。

- ① だんだん塾特別講義動画視聴：691名
- ② 指導案づくり：49名
- ③ 学校現場経験者の先生と語り合おう（教育現場概論）：39名

今後は①の動画本数をさらに増加させ、教職大学院や学部附属教師教育研究センターと連携し、③の対応可能な教員数を増やすことにより、新型コロナウイルスがもし蔓延した状況においても学生の教師力を例年以上に高めていくことができると考える。以下、学生の感想から本演習の成果を示したい。

学生の感想（一部抜粋）

「だんだん塾特別講義」感想レポートから

今回のだんだん塾でも、たくさんのことを学ぶことができました。大学生という時間のある今、自分の働きたい地域のことについて調べてみたり、基礎体験活動で行われている地域とかかわりを持てる活動に参加してみたりするなどして、教員になる準備を進めていきたいと感じました。主体的な学びを子供たちに求める教員も、主体的に活動していくことで、よりよい学習を子供たちに提供できると感じたので、普段からそのような姿勢を自分が示せるように、自分自身も大学での学び、大学での生活を通して成長していきたいなと思いました。

「学校現場経験者の先生と語り合おう」感想レポートから

今回の学校現場概論では、主に教員免許のことを中心にお話をしていただきましたが、自分の知らなかったこと、疑問を解決することができたので、とても有意義な時間を過ごすことができたのではないかと感じています。また、こうやって実際に現場に出ている先生の話聞く機会はなかなかないので、この機会を大切に、教育のことについてアンテナを張って、リサーチを行い、いろいろな疑問を見つけていきたいと思いました。さらに、疑問解決するだけではなく、ここで得た知識と学校での学びをつなげて、さらに深い学びへとつながるように、この体験を生かしていきたいなと思いました。次回以降の現場概論でもより有意義な時間を過ごせるように、いろいろな疑問をもって挑みたいと思いました。

(3) 8月末以降の基礎体験活動

令和2年2月から中止していた基礎体験活動（選択）は、4月17日付けの附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）にあるとおり、5月7日に前期の授業が遠隔授業（オンライン形式）で開始されることを受けて、再開する予定であった。しかしながら、全国的な新型コロナウイルス感染拡大状況により、学外に大学生を派遣する基礎体験活動はクラスター発生の危険性もあり、学部コロナ対策会議の決定を受け、4月23日付けの通知文で前期の活動を当面の間中止

とした。

その後、夏季休業に入った頃から感染状況が落ち着いてきたことから、8月下旬の最終週（8月24日～）から学生への感染予防策を十分に指導した上で再開することを7月10付けの通知文で事業所へ周知した（資料9～11参照）。

附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）

（令和2年4月17日付け）

本学部においては、現在のところ、今年度の授業を5月7日から開始としております。ただし、感染拡大防止のため、授業は原則としてすべて遠隔授業（オンライン形式）で行います。そこで、本活動の実施については、感染症予防への対策（学生への事前指導等）を講じたうえで、5月7日から実施したいと考えておりますが、最終的には、受け入れ先のご都合等に応じて、個別に実施の有無を決定したいと考えております。

（令和2年4月23日付け）

活動につきまして、令和2年4月17日付け文書にて、実施についてお知らせしていたところです。しかしながら、現在の新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、下記の通り、中止といたしますのでご了承ください。

記

○令和2年度前期の活動を当面の間中止といたします。

○活動実施時期については、現在のところ未定です。実施の目途がつき次第、別途ご連絡いたします。

（令和2年7月10日付け）

本大学においては、現在のところ、引き続き感染症予防のため、前期の授業を遠隔授業（オンライン形式）で行うことを原則としています。そこで、本活動の実施については、感染症予防への対策（学生への事前指導等）を講じたうえで、8月24日から再開したいと思っております。しかしながら、実施の有無については、受け入れ先のご都合等に応じて、個別にご相談したうえで最終的に決定したいと考えています。

※「募集用紙」は随時、受け付けます。学生への公開は、7月20日開始を予定しています。

(4) 基礎体験セミナー等（必修）の対応と実績

今年度は初めてのコロナ対応となり、全く先行きが見通せず対応が思うように進まなかったのが正直なところである。また、基礎体験セミナー等（必修）は^{ひと}一学年（130名）もしくは^{ふた}二学年（260名）の全員参加のものや、宿泊を伴うものもあったため、新型コロナウイルス蔓延以前の実実施計画が活用できず対応に苦慮した。今年度の対応と実績は【表3】のとおりである。多くのセミナーを中止としたが、基礎体験活動に初めて参加する1年生対象の「入門期セミナー」や、就職に係る3年生対象の「応用期セミナー」は内容・時間を必要最小限とし、分散開催等

会場を工夫することで実施した（資料12参照）。

次年度は今年度に経験したことを生かし、年度開始前に基礎体験セミナー等の対応について方針を定めて公開し、誰もが見通しを持って取り組めるようにした（資料13参照）。

表3 令和2年度基礎体験セミナー等（必修）の対応と実績

対象学年	セミナー名	認定時間	今年度の実績	対 応
1年生	入門期セミナー	22時間	2時間分実施	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	基礎体験合同説明会	1時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	地域理解セミナー	3時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	スタートアップセミナー	3時間	実施	—
1・2年生	基礎体験交流会	2時間	延期	令和3年度6月頃に新2年生・新3年生向けとして2時間で開催予定
2年生	充実期セミナー	2時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
3年生	応用期セミナー	3時間	実施	—
4年生	発展期セミナー	2時間	中止	不足時間分はセンター演習で補う。

(5) 入門期セミナー

入門期セミナー2020実施計画

1 目 的

- 専攻決定の趣旨や手続き等の説明を実施することで、学生個々の適切な専攻決定につなげる。
- 1000時間体験学修（主に基礎体験領域）の目的、内容、参加手続き等の説明を実施することで、学生の学修意欲の向上や参加手続きの理解を図る。
- レクリエーション活動を実施することで、新入生同士のつながり（横のつながり）や上級生とのつながり（縦のつながり）を促すとともに、新入生の心配事・疑問等の不安の共有・解消を図る。

2 日 程

- 期 日 令和2年7月8日（水）
- 時 刻 A・Bグループ（計70名）→（12：50集合）13：00～14：40
C・Dグループ（計70名）→（15：00集合）15：10～16：50

※1年生は10分程前に集合し、自己紹介カードを作成しながら会場で待機する。

※参加時刻は原則、所属グループの時刻とする。

※当日不参加の場合は、後日合同説明会動画（限定YouTubeにて配信）を視聴することで参加したこととする。

※本セミナーは「2時間」の時間認定とする。

3 会 場 大学会館 大集会室（3階）

4 内 容

① 学生委員長のあいさつ【5分】

② 専攻決定に係る説明・質疑応答【25分】

～上級生との情報交換【10分】～

③ レクリエーション活動【20分】

～希望に応じてライン、メルアド等の交換【10分】～

④ 1000時間体験学修に係る説明・質疑応答【20分】

⑤ 基礎体験活動記録票の記入について【10分】

※記録票を記入・提出した学生から流れ解散

※時間厳守で【 】内の時間以内にて

※司会進行、検温等の担当者は、マスク着用とアルコール消毒、ソーシャル・ディスタンス（1～2m）を呼びかける。

※ビデオは、13：00～14：40のみ撮影する。スライド画面が把握できるように撮影する。

※本説明会については、チューターにも伝え希望があれば参加してもらう。

本セミナーは新入生を対象に1000時間体験学修について理解し、同級生や上級生アドバイザーとの親睦を深めることを目的として、例年4月中旬の土曜・日曜日に一泊二日の宿泊型研修として実施していた。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月の実施は見送り、感染拡大がやや落ち着いた頃を見計らい7月に内容・時間短縮で2回に分散して開催した。中止したセミナーもある中、本セミナーは目的にもあるとおり、本学部教育カリキュラムの要となる1000時間体験学修の中の基礎体験活動（選択）のガイダンスや新入生の仲間とのつながりに鑑み、感染防止策を講じた上で実施することとした（資料14・15参照）。また1年生は入学式が中止となり、4月に2回の履修に関するガイダンスを対面で行ったのみであり、全学的にも1年生への手厚い指導を要請されていた。本セミナーはこうした要請にも応えるものとなった。

以下、学生の感想から本セミナーの成果を示したい。



レクリエーション活動の様子

学生の感想（一部抜粋）

- 周囲の人とコミュニケーションをとることができました。レクリエーションを中心に楽しく活動することができました。また、1000時間体験学修や専攻について不安だったところが解消できました。今回聞いた話をもとに大学生活をがんばっていきたいです。
- 専攻別のガイダンスや1000時間体験学修のこの話が聞いて良かったです。レクリエーションもさせてもらったので横のつながりができました。1000時間体験学修に積極的に参加しようと思いました。
- やはり直接的なコミュニケーションをとることが最高に楽しいなど、久々のオフラインのイベントを通じて改めて思いました。でも少し直接コミュニケーションをとることに期間が空きすぎて、ちゅうしょしたり遠慮したりしている自分もいました。これからきっとオフラインの活動が増えていくことを信じているので、その中でうまくコミュニケーションをとれるようにしたいです。
- 今日の活動に参加したことで、普段はほとんど向き合って会話をしていなかったので、対面で会話をするのができたり新しい友達と知り合うのができたりして、とても楽しかったです。
- 今まで何かしらの機会に話すことはあっても、直接に会って話すことが初めてで、コミュニケーションをとることが楽しかったです。上級生の方とも話すことができすこしだけ今後の教育学部で行っていく活動に対して不安が解消されました。

(6) 松江市校長会からの学習支援活動

今年度11月より松江市小学校長会（以下：校長会）と連携した学習支援活動が始動した。これは、小学校現場の教員不足対策並びに、教職を志望する学生の人材育成に、校長会として島根大学の1000時間体験学修と連携して取り組みたいという申し出が発端であった。大学側としても、喫緊の課題である「学生の教職離れ」対策の一つとして、これを好機とし連携を進めていった。実施までの経緯、実績等は以下のとおりである。

（経緯）

- 校長会で教員支援センター教員（橋津）が1000時間体験学修の趣旨説明を行う。

- 校長会事務局と協議を経て基礎体験活動募集用意を作成し、募集を募る。
- 参加学生の取りまとめは教育支援センターが行い、申し込みの都度校長会事務局へ名簿送付する。
- 参加学生の活動先（小学校）の割り振りは、校長会事務局が行う。
- 事前指導時に校長会事務局の校長先生より趣旨説明を行う。
- 活動先（小学校）と学生間の打ち合わせ（活動日、配当学年等の決定）は個別で行い、活動が開始される。

（実績）

- 受け入れ学校数 12校
- 参加学生数 4年生10名、3年19名、2年生1名、1年生5名 計35名

（活動内容）

- 担任の業務補助
- 児童の指導支援
- 子どもとの触れ合い 等

（成果）

- 小学校の教員採用試験に合格した学生が多数申し込んだ。
- 4年生にとって次年度から教職に就く学生にとっての採用前研修としての機会となった。
- 1～3年生にとって小学校教員を目指す意志が固まる、また小学校教員の魅力に触れられる、就職希望校種の変更について検討する機会となった。

（課題）

本学から徒歩や自転車で向かうことが距離的に困難な学校への移動手段

（補足）

- 本活動より以前から単独での小学校支援活動が行われている。
- 学校数 6校
- 参加学生数 3年生5名、2年生7名、1年生29名 計41名

（まとめ）

- 学年を問わず多くの学生が学校現場（今回は小学校）での活動を希望している。
- 1年生も多く申し込み、早い時期から学習支援活動を求める傾向がうかがえた。
- 実質的に中止となっているスクール・インターンシップ（令和4年度まで）の代替措置になっている。
- 単独の取り組みと校長会の取り組みの一本化が課題である。
- 支援活動の校種拡大が課題である。

(7) 応用期セミナー

応用期セミナー2020実施計画

1 目的

- ・基礎体験活動の実際をふまえ一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。
- ・教育実習での活動を振り返り今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を強く促す。

2 日時

令和2年11月27日（金）13：00～16：00 ※時間認定…参加者：3h

3 対象

学校教育実習Ⅳ及びⅤ履修者全員130名

4 会場 ※別紙「会場図1」, 「会場図2」

第2体育館（大学会館隣）

5 日程及び内容 ※当日会場準備…12：15～

13：00 13：20 14：20 14：30 15：50 16：00

O R ・ 諸 連 絡	ポスターセッション (15分×4)	休 憩 ・ 移 動	グ ル ー プ 協 議 (80分) ※志望進路別	ま と め ・ 諸 連 絡
----------------------------	----------------------	-----------------------	---	---------------------------------



ポスターセッションの様子

中止したセミナーが多数ある中、本セミナーは目的にあるとおり、これまで取り組んできた基礎体験活動（選択）や教育実習を振り返ることで進路選択につなげる重要な機会になることに鑑み、感染防止策を講じた上で実施することとした。例年はポスターセッションの後、進路希望別に数カ所の教室やホールを使用してグループ協議を行っているが、今年度はソーシャル

ディスタンスが十分に保て換気ができる本学第2体育館にて行った（資料16・17参照）。以下、教職員の振り返りから本セミナーの成果を示したい。

教職員の振り返り（一部抜粋）

- 志望別のポスターセッションが4回あり、今までのセミナーよりも3年生のニーズに 대응することができた。
- 上級生アドバイザーがポスターセッションに向けて事前準備・練習をしっかりと行っており、具体的で段取りが良く、3年生にとって分かりやすい話を聞くことができた。
- 新型コロナウイルス対応ということで初めて体育館で実施したが、密にならないことだけでなく全員が一堂に会することで意思統一や情報伝達ができて良かった。
- 広いスペースだったので、4回のポスターセッションやグループ協議の際の移動がスムーズで良かった。

(8) スタートアップセミナー2020

スタートアップセミナー2020実施計画

1 目的

- これまでの基礎体験活動を振り返り、取り組みの成果や課題等を共有することで、学生の参加意欲の向上と理解を図る。
- レクリエーション活動を実施することで、1年生同士のつながり（横のつながり）や上級生とのつながり（縦のつながり）を促し、1年生の不安の共有・解消を図り今後の大学生活に役立てるようにする。

2 対象 1年生

3 日程

○期日 令和2年12月9日（水）

○時刻 前半（13班：73名）→（12：50集合）13：00～14：40

12：15 スタッフ・上級生アドバイザー集合 12：45 開場

後半（11班：64名）→（16：40集合）16：50～18：30

16：10 スタッフ・上級生アドバイザー集合 16：35 開場

※参加時刻は学生への希望調査により決定する。不参加希望の場合は教育支援センターへ相談する。

※本セミナーは3時間認定とする。（セミナー2h＋感想レポート1h）

※感想レポートは、期日までにMoodle上に提出する。

※不参加の場合は、上記2名の学生と共に別日程でセミナーを開催し補講とする。

・予定 令和2年12月18日（金）3コマ 場所：133

・セミナー2h＋感想レポート1h

4 会場 大学会館 大集会室（3階）

5 内容及び担当

- ① 教育支援センター長のあいさつ【5分】
- ② レクリエーション活動【50分】
- ③ 基礎体験活動に係る説明【15分】
- ④ 基礎体験活動交流会【25分】
- ⑤ まとめ・諸連絡【5分】

※時間厳守で【 】内の時間以内にて

※司会進行、検温等の担当者は、マスク着用とアルコール消毒、ソーシャル・ディスタンス（1～2m）を呼びかける。



レクリエーション活動の様子



基礎体験活動交流会の様子

本セミナーは、新入生として初めて取り組んだ基礎体験活動（選択）について振り返り、今後の活動へのより良い見通しを持つことを目的として、例年前期終了の9月下旬に実施している。しかしながら、今年度は基礎体験活動（選択）を前期中は中断し8月24日から再開したことや、新入生の仲間づくりをさらに進めるため、12月に入ってから学生の実態に合わせた内容に変更し2回に分散して開催することとした（資料18・19参照）。以下、教職員の振り返りから本セミナーの成果を示したい。

教職員の振り返り（一部抜粋）

- レクリエーション活動により学生の交流を深めることができた。
- 学生の様子からレクリエーションを楽しんでいることが伝わってきた。
- メール文の手本となる文面が示したので、その後の1年生から届くメール文がとても丁寧な文面になり、指導の成果がうかがえた。
- 上級生アドバイザーが会の進行や準備・片付き等において大いに活躍してくれて助かった。
- 仲間作りの面や基礎体験活動の面で1年生の実態に合ったセミナーの内容であった。
- 専攻ごとに1年生の班を組んだり、上級生アドバイザーを配置したりしたのは専攻別の詳しい話もできて良かったし、今後のつながりも持てて良かった。

(9) だんだん塾講演会

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開設したセンター演習「だんだん塾特別講義(動画)」の企画と連動した講演会として実施した。講師は例年と同様に教育現場や教育行政等の外部機関から優れた実践者を招聘した。コロナ対応として参加人数は30人を上限としたが毎回3分の2を上回る参加者人数であった。今年度の講演内容は島根大学教育学部の近年の課題である「学生の教職離れ」に対応した内容(教育現場に直接関わる実践的な内容)となるように講師や講演内容の選定・依頼、本講演会を実施した。参加学生の反応や感想から有意義な講演会であったことがうかがえた【表4】。



第2回の様子

表4 だんだん塾講演会の開催実績

回数	日時	講演者	講演テーマ	参加人数
第1回	1月13日(水) 14:55-16:35	米子市教育委員会課長補佐兼 人権教育指導主事 乗本 学 氏	人権教育の視点に基づいた 学級経営 ～隠れたカリキュラム～	コロナ 感染拡大 のため中止
第2回	2月5日(金) 14:55-16:35	島根県教育センター教育相談 スタッフ兼指導主事 笹原 由乃 氏	保護者とのほっとコミュニ ケーション	28名
第3回	2月26日(金) 13:30-15:10	前松江市長 元島根県教育委員会生徒指導 推進室企画幹 上代 裕一 氏	学びに困難を抱える児童生 徒をどう理解し、育成して いくか	24名
第4回	3月3日(水) 14:55-16:35	安来市立山佐小学校長 浜崎 順子 氏	へき地校(小規模)の学校 運営について	21名



第3回の様子



第4回の様子

2. 学内資格認定制度

表5 学内資格認定者数

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の3つの学内資格を設定している。今年度の認定者は延べ9名であった【表5】。

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	5名	4年生5名
学校教育サポーター	2名	4年生2名
コミュニティサービス・サポーター	2名	4年生2名

3. 各受け入れ先との連携

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）にあるとおり、例年行っている以下の連絡会議、説明会を中止とした（資料20・21参照）。なお、令和3年度の令和3年度の第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会についても今年度と同様に中止と決定している。

- 第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会
- 第2回基礎体験活動連絡会議

附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）

（令和2年3月26日付け）

令和2年度 第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会について

例年、4月中旬に基礎体験活動について説明していただきました連絡会議及び各事業所から1年生に対しPRいただいていた合同説明会につきまして、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、中止とさせていただきます。

なお、基礎体験活動の実施につきましては、下記のとおりですのでよろしくお願いいたします。

記

【基礎体験活動の実施について】

- *登録につきましては、従来通り申込みを受け付けていますので、島根大学教育学部附属教育支援センターホームページをご覧ください。
- *新1年生につきましては、開始時期を4月下旬に予定しています。
- *新1年生への各活動説明は4月中旬に大学職員が行います。説明に併せ、チラシを配布する事も可能ですので、希望される事業所はA4（1枚 両面可）で作成いただき、140部送付をお願いいたします。

（令和3年2月10日付け）

令和2年度 第2回基礎体験活動連絡会議等について（連絡）

例年、2月中旬に開催の基礎体験活動連絡会議につきまして、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、中止とさせていただきます。

【令和3年度】

- ・基礎体験活動の登録は、宿泊を伴う活動を除き従来通り受け付ける予定です。4月当初からの活動を希望される場合は、今年度3月中旬を目途に募集用紙を提出してください。
- ・令和3年度の第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会は中止といたします。なお、新1年生への説明は4月に大学職員が行います。説明に併せ、チラシを配布する事も可能ですので、希望される事業所はA4（1枚 両面可）で作成いただき、140部送付をお願いいたします。

また、スクール・インターンシップについては、以下の附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）にあるとおり、令和4年度まで中止となった（資料22参照）。

附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）

（令和2年6月19日付け）

令和2年度「スクール・インターンシップ」の中止と基礎体験活動への振替について今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前期に定期開講予定の科目のうち、特に遠隔授業の実施が困難な科目を中心に後期開講へ移行したことにより、3年次生も後期「実習セメスター」に科目履修をせざるを得ない状況となりました。そのため、特例として3年次後期の教育実習期間「実習セメスター」の開設並びに、学校教育体験活動「スクール・インターンシップ」を取り止め、3年次生も後期に定期開講される科目の履修を可能とすることに決定した次第です。尚、単位が順調に履修できている学生は平日の時間割がほぼ空欄になる可能性があります。下記にありますように「基礎体験活動」として従来の「スクール・インターンシップ」に該当する教育支援活動が可能ですので、申請して頂くよう各校をお願いしております。

Ⅲ 成果と今後の課題

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、「体験活動をどれだけ実施することができるか」や「学生の教職離れに対応したものへどのように変えていくか」に主眼を置き、見通しの立たない中、取り組みを進めた。新型コロナウイルスの影響で前期はほとんどの活動ができなかったが、「センター演習」を始めとした学内や自宅で体験可能な活動を学生が頻繁に参加し、たくさんの学びを得ることができた。図2に示した卒業生の平均体験時間を見ると、基礎体験活動が教師力の育成に大きく影響していることがうかがえる。また、卒業生の平均体験時間が1180時間程度あり、卒業要件である1000時間を大きく超えていることから、学生自身が体験活動の有意義さを実感し、主体的に活動に取り組んでいることが分かる。

終わりに、今後の取り組みに生かすため次のような、「新型コロナウイルス蔓延時の対応」と「学生の教職離れへの対応」の成果と課題を挙げておきたい。

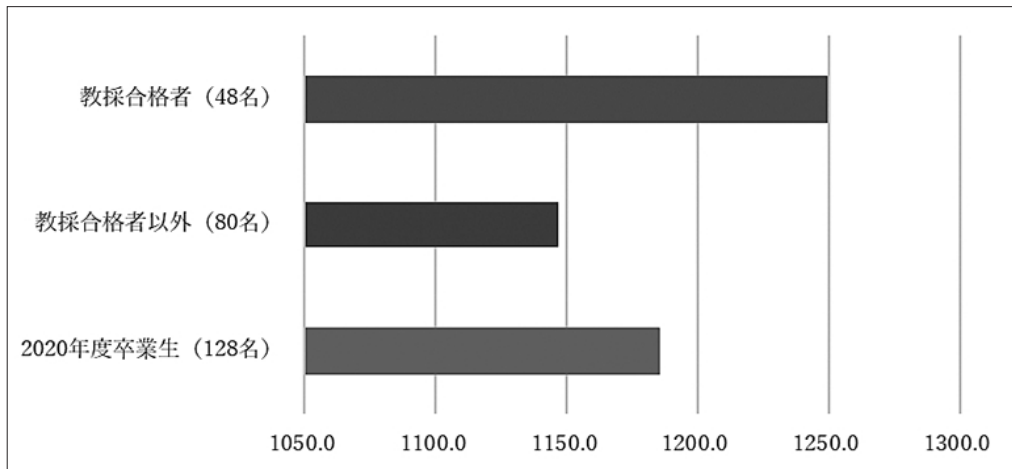


図2 2020年度卒業生の平均体験時間数

1. 新型コロナウイルス蔓延時の対応

(1) 成果

- 初めて経験した新型コロナウイルス蔓延下において、学内や自宅で体験可能な基礎体験活動（センター演習）を迅速に企画・公開することができた。そして、その活動を学生が頻繁に活用していた。
- 1年生が基礎体験活動を進める上で最低限必要な内容を、セミナーを開催することで（新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で）指導することができた。次年度からは入学前にオンラインを活用した「1000時間体験学修ガイダンス」を視聴するように指導し、入学後のセミナーとの相乗効果を狙いたい。
- 3年生の進路選択に係る重要な内容を、セミナーを開催することで（新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で）指導することができた。
- 初めてとなった新型コロナウイルス感染防止対応の経験を生かして、次年度のコロナに対応した各セミナーの計画を立てることや、段階が上がった際の基礎体験活動の対応方針を決定することができた。

(2) 課題

- 学内で参加できる基礎体験活動をさらに充実（活動の数と質の向上）させたい。
- 段階が上がった際の迅速で適切な判断と外部機関との連携、学生への対応内容の周知に努めたい。

2. 「学生の教職離れ」への対応

(1) 成果

- 例年、基礎体験活動の参加種別の割合として少なかった「学校現場における活動」の割合を増やし、それらの活動を学生に提供することができた。
- 新型コロナウイルス対応として試みた「センター演習」の内容を、学校教育に特化した内容にして学生に提供することができた。そして、だんだん塾特別講義（動画）については学生

が特に頻繁に活用した。

- センター演習「教育現場経験者の先生と語り合おう」において、教職の魅力ややりがい等教職に向けてプラスの内容を学生に発信することや、学生の教職に向けての不安や疑問に対して応え、解消につなげることができた。

(2) 課題

- 教育支援センターでの取り組みをセンター以外の教職員にも発信し、学部全体で連携した取り組みにしていきたい。
- 今後も本課題解決に向けて、学生に基礎体験活動の内容を吟味して提供するとともに、外部機関（特に学校現場や教育行政）と連携して活動内容を提供していきたい。

以下の「山陰教員養成プロジェクトマップ2021」は、本課題解決に向けたポンチ絵である。引き続き、学生の教師力定着と教員就職率向上に向けて尽力していきたい。



追記

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、鳥根県、鳥取県も全国的には少ない人数であっても感染者が出ている。基礎体験活動は「生の児童・生徒、学外の方」と関わる活動であるため困難な状況が続出し、様々な対応が後手後手にならざるを得ない状況が度々あった。こうした非常事態な状況の中で、手探りながら今年度の体験活動を実施できたことを教育支援センターのセンター長として喜ぶとともに、センター所属の橋津准教授、田中准教授、山根特任教授、山中特任教授、長岡特任講師、太田事務員、皆さんの協力に感謝申し上げる。